一般社団法人全国日本学士会　創立７０周年記念式典

森田嘉一会長　挨拶

　只今紹介にあずかりました、会長の森田でございます。

本日は、お忙しい中、本会の創立７０周年記念式典に、多数の方のご出席を賜り、厚く御礼申し上げます。

本会は、本年２月１１日に創立７０周年を迎えました。

これを記念して、本日、盛大に記念式典を開催できますことを、心より感謝申し上げますとともに、ご支援いただいた全国の会員の皆様とともに、この慶事を慶びたいと思います。

　顧みますと、本会は、昭和２１年の敗戦の廃墟の中から、「学問の自由、教育の民主化」を旗印として、戦禍の少なかったこの京都の地で設立されました。

　当時、敗戦による混乱の中で、食べるものさえ事欠く日常にあって、学問の尊厳は著しく低下し、「アカデミズム」は、一升の米にも満たなかったと言われています。

　そうした中、京都大学の諸先生方を中心にして、学術振興の再興を図られたご努力は、筆舌に尽くし難いものであったと思います。

　初代会長の京都大学教授の野上俊夫先生をはじめ、ノーベル賞をその後に受賞された湯川秀樹先生等、日本を代表する学者・科学者が本会を設立されたのであります。

　しかも、本会は「学問は自由であり、かつ民主的であるべきである」として、国公私立を問わずすべての大学卒業者、さらには、学歴を問わず、本会の趣旨に賛同し、学術振興にご理解いただける方々にご入会いただき、文字通り幅広く、民主的に発足したのであります。

　今日に至りましても、この趣旨は引き継がれ、本会は、教育機関、医療機関、民間企業、芸術分野等々の関係者など、実に幅広い会員によって支えられています。

　これも、ひとえに本会を今日まで導いていただきました、多くの関係者のご指導・ご支援の賜物と深く感謝いたす次第です。

　本会の歴史は、文字通り、日本の戦後の歴史と軌を一にしております。

　今日まで紆余曲折を経ながら持ちこたえて参りましたのは、関係各位のご努力もさることながら、「学問の自由、教育の民主化」という大儀に対し、幅広い多くの方の賛同があってのものと確信しております。

　私は、６年前の平成２２年９月３日、当時会長の西島安則先生が急逝されたことにより、副会長の私がその後を継ぐ形で、第１０代会長を務めさせていただいております。

　西島先生の逝去は突然のことで、また、高名な科学者であるとともに、大変な教養人であり、人格者であられました西島先生の後を継ぐというのは、並大抵なことではないと思いましたが、副会長として、西島先生のもとで多くのことを学ばせてもらい、その恩返しのつもりで、精一杯務めさせていただく決意をしたことを思い出します。

　以後、西島先生のご意志を継ぎ、また、従来の事業の他に、新たに、教育研究助成、公開シンポジウムなどの事業に取り組むなど、本会の目的に掲げる「教育・学術及び文化の振興に寄与する」ことを、より一層押し進めるとともに、会の運営・経営改善にも取り組んで参りました。

　そして、ここに無事に、創立７０周年記念式典を執り行わせていただけることは法外の慶びであり、また、会員の皆様方のご支援・ご協力の賜物と感謝申し上げる次第です。

　今後も引き続き、会員の皆様方とともに、本会の目的「教育・学術及び文化の振興」の実現を図るため、さらに尽力してまいりたいと決意を新たにし、簡単ではございますが、私のご挨拶とさせていただきます。

　平成２８年１１月２６日

　　　　　　　一般社団法人全国日本学士会　会長　森田　嘉一